

第8期瀬戸市高齢者福祉計画・介護保険事業計画 評価表（令和4年度下半期）

1 地域包括ケアシステムの深化・推進

(5) 高齢者の住まいの安定的な確保

評価項目	分野	年間目標値	上半期実績値	下半期実績値	年間実績値	達成度
⑩居住支援協議会を通じた住まいに関する相談件数とマッチング件数 ※年間合計	介護 住まい	50% (*)	44.44% (4/9件)	41.66% (5/12件)	42.86% (9/21件)	B
目標値は未達成。各支援機関と連携を取りながら、居住に限らず相談者に寄り添い対応できた。課題である死亡時の遺品整理等は、入居者に対し適切に説明をし、理解してもらう必要がある。						
⑪居住支援ケース検討会議開催数 ※年間合計	介護 住まい	5回	3回	3回	6回	A
目標値は達成。各支援機関との連携がスムーズになり、困難な事例にも対応できた。						
⑫介護サービス相談員派遣回数（施設サービス） ※年間合計	介護	18回	14回	15回	29回	A
目標値は達成。介護サービス相談員を新たな施設や事業所に派遣できた。相談員が事業所の管理者や多くの利用者と同面談することができた。						

(\*) 令和4年度下半期から目標値修正

⑩年間目標値 80%→50%

- A 達成できた
- B おおむね達成できた
- C あまり達成できなかった
- D 達成できなかった

総合評価

A

担当部署評価

各支援機関と連携を取りながら、安定して事業が行えた。居住支援事業について、死亡時の遺品整理等の課題を把握した。介護サービス相談員派遣事業について、介護サービス相談員、事業所の管理者と担当部署の三者会議等を新たに実施できるようにしていくことで、担当部署は事業所のサービス改善や調整の橋渡しに努める。引き続き、高齢者の住まいの安定的な確保に努める。

#### 評価委員会評価

居住支援協議会を通じた住まいに関する相談件数とマッチング件数において、困難なケースが多い中、9/21件は非常に高い数字である。

介護サービス相談員派遣回数において、年間目標値18回に対し、実績値29回と160%増となっている理由は、介護サービス相談員が1名から2名へ増員したこと、コロナ禍ではあったが事業所の訪問の受け入れが徐々に再開されたこと等を評価委員会で確認した。